

第 2 学年国語科学習指導案

日 時 平成18年10月26日(木) 5校時
場 所 2年教室
児 童 男8名 女12名 計20名
指導者 村上 尚子

- 1 単元名 友だちに分かるように話そう(光村図書「国語2年上」)
教材名 あったらしいな, こんなもの(話すこと・聞くこと)

2 単元について

(1) 教材について

第1・2学年における「話すこと・聞くこと」領域の目標は、「相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話す事や大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる。」ことである。本単元では、この目標を踏まえ、児童に「相手を考え、知らせたい事を選び、順序に気を付けてよく伝わるように発表する力」と「興味を持って大事な事を落とさずに聞く力」を育てることをねらいとして設定した。

この時期の児童は一年生のときに比べ、友達の話も少しずつ注意して聞けるようになり、また人前で話すことにもだいが慣れてきている。本単元の学習は、そのような経験の上に立ち、よりよく話の内容が相手に伝わるような話し方の工夫や聞くことの大切さについて児童に考えさせるとともに、話題に沿って質問したり、質問に答えたりするなどの言語活動のはばを広げていくものである。

本教材は大きく三つに分けられる。一つ目は、二人一組で「あったらしいな」と思うものについて話し合うこと。二つ目は「あったらしいもの」を聞いている人に分かりやすく伝えるためにカードにまとめる作業。三つ目は発表の練習と、学級のみならず一年生の前での発表である。一年生に分かりやすく発表するためには、順序に気を付け、大事な事を落とさないように話すことが必然的に考えられることであろう。以上のことから、本教材は「相手を考え、知らせたいことを選び、順序に気を付けてよく伝わるように発表する力」、「興味を持って大事な事を落とさずに聞く力」を育てるために適した教材だと考える。

(2) 児童について

児童は、2年上「ともさんはどこかな」の教材において迷子を探すゲームを通して、話し手は大事な特徴を落とさずに話すこと、聞き手は特徴を落とさないように集中して聞くことを学習した。また、国語の学習以外にも、1年時から続けている朝の会のスピーチコーナーでは、友だちの前で話をする活動を行っている。そこでは身近な出来事について話した後、詳しく知りたい事について尋ねるということを繰り返してきた。夏休み明けには低学団での夏休みの作品発表会を開き、作品の作り方などの説明を話したり、作品についての質問や感想を述べ合ったりしてきた。

これらの学習を通して、児童は知らせたい事を順序を考えながら話すことができるようになってきており、人前で話すことに意欲的に取り組む児童が多い。一方で、他学年に対する発表の経験は少なく、相手を意識した話し方ができる児童は少ない。聞くことについては大事な事を落とさずに聞く力は少しずつ育っているものの個人差があり、話題に沿った質問をすることが難しい児童もみられる。

(3) 指導あたって

単元の指導について

本単元の指導にあたっては、児童の話す意欲、聞く意欲を喚起するために、導入や第二次の「あったらいいな」と思うものについての二人一組の話し合いでは、既成の物事にとらわれない自由な発想をさせ、日常生活の中から必要性の感じられるものを一人一人の児童にみつけ出させたい。

第三次では、「あったらいいもの」を聞いている人に分かりやすく伝えるためにカードにまとめる作業を行う。この作業では内容を事柄ごとに整理することを体験させる。その際、聞き手である一年生のことを十分に意識させ、聞き手に分かりやすく伝えるためには、話す順序をどうしたらよいかを考えさせたい。カード一枚一枚にはたくさんのことを書かせるのではなく、一枚に一つの事柄を書かせる。自由に並び替えができて、見やすい大きさのカードを用意したい。話す練習では、一年生と学級みんなの前での発表ではどのような話し方がよいか、焦点を当てて考えさせてから練習させる。よく伝わる発表にするためには、練習における聞き手のアドバイスが重要となる。聞き手にそのような意識を十分に持たせたい。また、聞き手に対しては、「あったらいいもの」について発表し合い、考えのよさや話し方のよさを交流する発表会であるので、そのことを踏まえての聞き方についてもしっかりと押さえていきたい。

研究主題に関わって

ア モデルの効果的活用について

第三次で、カードに発表の内容や順序を書く活動は、児童にとって初めての活動である。聞いている人に分かりやすい順序〈どんなものか 名前 形 使い方〉を理解させるために、順序が分かりやすいモデルと分かりづらいモデルを教師が提示し比較する学習を行う。

第三次で四人のグループになり、交代で発表の練習をする際に、「順序よく、ちょうどよい声の大きさ、みんなの方を見て、はっきりした発音で」の話し方がより多くできている児童を抽出しモデルとする。他の児童がモデルのよいところに気付き、さらによりよい発表ができるためのモデルとして活用したい。

イ 互いのよさを認め高め合う活動について

第二次での二人一組でどんなものがあったらいいか話し合いをする活動では、「話題からそれない、うなずきながら聞いている」など上手なやり取りができている二人組を取り上げ、教師がよさを他の児童に広げるようにする。

第三次ではグループでよいところを認め、よりよい発表をするためのアドバイスをし合いながら発表の練習をすることでねらいに迫らせるようにする。

第四次の発表会では、2年生の聞き手に話し手のよい点を感想で述べるようにさせ、お互いのよさを認め高め合えるようにする。また、発表が終わるごとに教師が話し方、聞き方、質問の仕方などのよいところを取り上げて認め合うようにする。

3 単元の目標

< 関心・意欲・態度 >

自分で考えた「あったらいいもの」について相手に分かるように話したり、友達とやり取りしたりしようとする。

< 話すこと・聞くこと >

考えたものについて事柄の順序を考えながら、聞き手に分かるように話すことができる。

(話すこと・聞くことア)

興味をもって聞くことで、友だちの発表の大事な事について質問や感想を言うことができる。
 (話すこと・聞くことイ)

相手の考えた事に対して、質問や意見を出し合うことができる。(話すこと・聞くことウ)

<言語事項>

姿勢や口形に気を付けて、はっきりした発音で話すことができる。(言語ア(ア))

丁寧な言葉遣いで発表できる。(言語オ(ア))

4 指導計画 (全13時間)

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準	
第一 次	1	単元のねらいを知り、学習の見通しを持つ。	関	「あったらいいもの」を考えて発表する学習に意欲的に取り組もうとしている。
			話	どんなことを考え、誰に何を話すのか見通しを持っている。
	2	「あったらいいもの」を自分でたくさん考える。	関	「あったらいいもの」をたくさん考えようとしている。
			話	「あったらいいもの」をたくさん考えている。
	3	学習のめあてをもつ	関	発表会を開くまでの活動の流れに応じた「話すこと・聞くこと」のめあてを考えようとしている。
			話	これまでの学習をふりかえり、発表会を開くまでの活動の流れに応じためあてをつかんでいる。
第二 次	4	・たくさん考えた中から友だちに知らせたいたいものを選ぶ。 ・対話のしかたを学習する。	関	みんなの前で発表するものを一つ選ばようとしている。 「話し合い上手」を考えようとしている。
			話	みんなの前で発表するものを一つ選んでいる。 「話し合い上手」に必要なことをみつけている。
	5	話し合いの目的を知り、二人組みになって対話する。	関	二人で対話して、自分で考えたものをくわしくしようとしている。
			話	相手の話を受けて、話している。 自分の考えを積極的に述べている。
			言	はっきりとした発音で話している。
第三 次	6	カードに発表の内容や順序を書く。	関	聞いている人に分かりやすいように内容をまとめ、順序を考えようとしている。
			話	聞いている人に分かりやすいように内容をまとめ、話す順序を書いている。
	7	発表するときに提示する資料を考え、作成する。	関	資料を考え作成しようとしている。
			話	資料を考え作成している。

第 三 次	8	二人組みで絵とカードを見せ合 って、アドバイスしあう。	関	聞いている人に分かりやすい発表になるよう に絵や発表のカードのアドバイスをし合おうと している。
			話	聞いている人に分かりやすい発表になるよう にアドバイスをし合っている。
			言	はっきりとした発音で話している。
	9	・聞く人によくわかる話し方を考え る。 ・各自発表練習をする。	関	分かりやすい発表になるように練習しようと している。
			話	大事なことを落とさないように話している。
			言	丁寧な言葉遣いで、はっきりした発音で話して いる。
10	一年生に紹介するために、グルー プでアドバイスし合いながら、発表 の練習をする。 【本 時】	関	アドバイスし合いながら、分かりやすい発表に 向けての練習をしようとしている。	
		話	知らせたいことを選び、順序を考えながら「あ ったらしいもの」を話している。	
		言	丁寧な言葉遣いでみんなに聞こえる声の大き さではっきりした発音で話している。	
11	発表会の準備をする。	関	どのような発表会をするのかをイメージし、進 んで発表会の準備に取り組もうとしている。	
		話	どのような発表会を開くのかをイメージし、知 らせたいことを選び、順序を考えながら「あつ たらしいもの」を話している。	
		言	丁寧な言葉遣いでみんなに聞こえる声の大き さではっきりした発音で話している。	
第 四 次	12 13 「あったらしいもの」の発表会を開 き、学習のまとめをする。	関	質問や感想を持ちながら興味を持って話を聞 こうとしている。	
		話	知らせたいことを選び、順序を考えながら「あ ったらしいもの」を話している。 発表を聞いた後に、質問や感想を話している。	
		言	丁寧な言葉遣いでみんなに聞こえる声の大き さではっきりした発音で話している。	

関 関心・意欲・態度 話 話すこと・聞くこと 言 言語事項

5 本時の指導

(1) 具体目標

ア 目標とする児童の姿

自分が「あったらしいな」と考えたものについて、適切な声の大きさとはっきりした発音で、順序を考えて発表することができる。

イ 身に付けさせたい言語能力

知らせたいことを選び、順序を考えながら話す力

(3) 具体の評価規準

A	自分が「あったらいいな」と考えたものについて、適切な声の大きさとはっきりした発音で、順序を考えながらよさが分かるようにくわしく発表している。
B	自分が「あったらいいな」と考えたものについて、適切な声の大きさとはっきりした発音で、順序を考えて発表している。
努力を要する子への支援	前時までの学習で作ったメモを活用し、順序を確認してから発表するようにする。